●九州支部

人気公園と衰退する中心市街地をつなぐスイッチ｜大分県津久見市／都市構造 PDCA 研究分科会の活動報告－宮崎大会でワークショップを開催－

1. 人気公園と衰退する中心市街地をつなぐスイッチ　大分県津久見市

大分県津久見市は平成の合併を行わなかった人口約 2 万人、80 ㎢の街で、全国シェアの 5 割程を占める石灰鉱山、マグロを中心とした遠洋漁業をはじめ、小ミカンの先祖木がある程の多品種な柑橘栽培など、1、2 次産業共に盛んな地域です。また、リアス式海岸の穏やかな入り江近くには、2 つの有人離島が立地するなど、コンパクトながら風土・産業ともに、多様な魅力の詰まった地域です。また、観光をはじめとする 3 次産業の育成や、かつては海洋交通の拠点として栄えた人口 2 万人の中心市街地衰退対策は地域の大きな課題を抱えた地域でもあります。

このような中、大分県と津久見市が連携し、実施している「観光周遊性創出事業」の一環として、多くの市民の方々にワークショップ形式で参画頂きながら、3 カ年計画で様々な取組みを検討しています。今年度は初年度に当たりますが、隣接する港湾緑地に整備された「つくみん公園」に、遊具などの充実した公園施設を目当てに、市内外から訪れる多くの方々と衰退する中心市街地をつなぐことから始めよう、という提案が多くありました。この内容を具現化し、その可能性を検討するために、現在、社会実験を実施しています。これらの実験の内容、展開方法、施設種類の配置計画などは、ワークショップで市民の方々と共に決定しています。また、コンテナや工事も地元企業や技術者が寄贈・協力し、さらには施工も、多くのボランティアに支えられながら実施されました。市民の日常的な憩いの場として、また人気公園と街をつなぐ情報発信拠点となり、まちへの回遊を促すスイッチとして、長く愛されることをめざして設置されています。2015 年 10 月にオープンしたばかりの小さな施設ですが、今後の運営ルールや、愛称を決めるためにと、市民の方々が自発的に来訪者へのアンケート調査を実施するなど、市民の方々のさらに活発な動きもあり、大きな一歩を踏み出した 1 年目です。

（文責：幹事　柴田久（福岡大学）姫野由香（大分大学））

実験の様子（外観）

実験の様子（内観）

2. 都市構造 PDCA 研究分科会の活動報告
－宮崎大会でワークショップを開催－

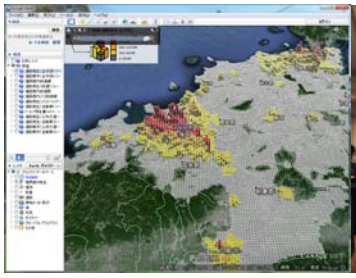
宮崎シーガイアで開催された第 50 回学術論文発表会において、平成 26 年度から活動している都市構造 PDCA 研究分科会のメンバーによる「ネットワーク型コンパクトシティ構想とそれを支援する都市構造可視化の取り組み（福岡県を対象として）」と題したワークショップを九州支部主催で開催しました（平成 27 年 11 月 7 日）。

まず、外井支部長による開会挨拶の後、分科会代表の辰巳福岡大学教授から主題説明が行われました。ネットワーク型コンパクトシティの実現に向けたマネジメント手法として、PDCA サイクルの確立を目指しているが、特に施策に対する技術的評価（Check）を行うため、「都市圏オーソリティ」の提案と評価支援ツールの開発を行うことを目的としており、本ワークショップでは、その研究成果の一部として都市構造可視化の取り組みについて報告するとともに、今後の展望に関する討論を行いたい旨の説明がありました。

次に、話題提供として、出口東京大学教授より「都市計画制度を活用した広域計画の取り組み」、赤星福岡県都市計画課長より「福岡県が目指すコンパクトシティについて」と題した発表があり、その後、有馬佐賀大学教授と辰巳福岡大学教授より、都市構造可視化サイト（画像-1）を使用しながら、土地利用や都市交通の視点からみた福岡県のトレンドや都市のスマートシュリンクの重要性について説明がなされました。

後半は、谷口筑波大学教授のコーディネータのもと、まず内田福山コンサルタント次長より都市構造可視化サイトの説明があり、続いてそのサイトをスクリーンに映し出して国内の各都市の特徴を見ながら、会場の参加者とのインタラクティブな討論が行われました。参加者数は 60 名以上を数え、サイトに関する質問やデータ整備のリクエストが出されるなど、活発な意見交換が行われ、大盛況でした。

（文責：橋本信幸（都市プラン九州））


画像-1　都市構造可視化サイト

画像-2　WS の風景